

園長だより



おさむこさむ

やまから小僧が泣いてきた

さむいといって泣いてきた

おさむこさむ おさむこさむ

冬支度が間に合いません。ここ数日の寒さは身にしみます。冬の到来を感じさせるこの頃、まだまだ寒さが厳しくなるとは夢でありたいものです。

子ども達の元気さに暖をわけてもらい日々、寒さに負けず、元気に過ごしたいものです。

「感性を育む」

「感性を育む」という言葉、保育業界では多々、使われている言葉です。さらっと言っているのですが、軽々しい言葉ではありません。

外界からの刺激に応じて、感覚や知覚が揺さぶられすべての感覚器官の感受性が働かされます。大人なら、あれこれと理論づけ難く考えてしまうものですが、子ども達は澄んだ感覚器官をもち、幾つもない方法を使い、表現に結びつけます。

先月の電車遠足、公園で、元気いっぱい遊んでいる子ども達、当日は強い風、大人だけなら早々に引き上げるところ、太郎君（仮名）はその風の強い公園の落ち葉、時折、吹く風で飛ばされている光景をみて「落ち葉も鬼ごっこしているよ」と

飛んでいる落ち葉を自分と重ね合わせ、自分の心情を言葉に表していました。

音楽を聴いて「心地よい」とか花をみて「きれいだ」という表現ではありません。

大人はとかく、美しいものをみて美しいと感じる心を持つことが感性の豊かさだと認識している方が多くいます。けして間違いではありません。

ただ、子どもの世界では見たもの、聴いたもの、触れたものを自分の経験（頭の中にため込んだもの）とつなげ、再構築し、表現することが、多々あります。

それは瞬時に出てくることもあります。しばらく、間をおいて出てくることもあります。

こんなことがありました。微笑ましくなった場面です。

3歳児のよしこちゃん（仮名）園庭の芝生で寝転んで遊んでいるとき、ふと空を見上げながら、

「おそらは、かゆいのかな、たくさん、かゆいのかな、おくすりぬってあげればなおるよね」と私もよしこちゃんと寝転びながら空をみて「あーなるほど」とおもいました。空にはうろこ雲が、雲を見ながら、体験をつなげ、自分の身体をつなげ、葉をぬってもらった時の心地よさをつなげ、幾つもの思いが頭の中で結ばれたときに言葉に出てきたのでしょう。

きっと、葉を塗ってもらうとき優しい言葉をかけられながら、人との関りの心地よさとかゆさが引いていく心地よさを感じたのでしょう。優しく接してもらった体験

がうろこ雲をみたときに心を動かされることにつながった場面でした。

「心の育ち」

保育園で子ども達と共に生活していると前記のような場面に出逢うことがあります。比較的多いかもしれません。

子ども達の心の育ちを実感する時、私は、先にあげた「感性の育み」と相重ねて感じることがあります。

前号の中で子どもを理解するキーに「感じる」ことの大切さを述べまし



た。今、目の前にいる子どもが何を感じ、何を思い、何をしたいのか、心の動静を読み取ってあげることが子ども（子ども達）の理解につながる。

子ども達の心や起こす行動に受容的共感での対応が安心感の中で心を育てる、しいて言えば感性を育むと言えると考えます。

美しいものを美しいと感じる、音楽を聴いて心地よく感じることは感性の一部分、その感性の基をつかさどるのは、身近な大人（人）に愛され、受け入れられ、自分の思いや、外界からの刺激に共に共感してくれる大人の存在が大きく影響するのではないのでしょうか。

子ども達のように純粋な心、大人になると、どこかに忘れ、おいていかれる心、子ども達との生活を共にしているから

こそ、もう一度、私達、大人も心を育みたいものです。

「師走にはせる気持ち」

もう師走、子どもの頃、師走とは師が忙しく、動き回るからと聞かされました。その師とは（先生）とっていて、「あーなるほど、12月は通信簿をつけたり、先生も大忙しだ」と子どもながらに思っていました。

時がたち、「師とは一体誰なの？」もう何十年も前に我が子に質問され調べた記憶があります。諸説はありますが師は僧侶を指し、仏事の為、忙しく走り回る、又年の瀬から寺社に参詣者が訪れ、1年で最も忙しくなる時期と答えた記憶がある。

ただ、やはり私は、「先生が忙しくしているから」という考えがしっくりくる。

仕事をしている以上、どの職種もこの時期、忙しいのは当たり前、でも先生といわれる職種は尚更、忙しい、その中で残されている生活（進級や就学まで）をもう一度、今までの生活を振り返り、有意義なものにしていく作業がある。

子ども達の生活で何を大切にし、何を経験させてあげたいのか、日々の活動や行事への取り組みや内容を吟味し、最終的な方向を考えていくことは必須の課題です。そんな作業に取り組みながら、子ども達の成長に一喜一憂し、これからの成長にわくわくと胸を躍らせています。

（園長 廣部 信隆 7）